

くだもの栽培に異変

おいしい いへん



私たちが一年中、おいしい果物を食べられるのは、生産者が手間をかけて栽培してくれているおかげです。しかし最近、果物の産地では温暖化の影響と見られる多くの異変が発生しています。

リンゴやブドウでは、収穫時期になっても果実が赤や紫に色付かない現象が起きています。夏々秋の成熟期に高温になって、赤紫色の色素であるアントシアニンの合成が進まないのが原因です。ミカンでは、果実が変色する日焼け果や、果皮と果肉にすき間ができてブカブカになる浮き皮

果の発生が増えていきます。日焼けは強い日射による果実の高温、浮き皮は成熟期の高温・多雨によって起こります。

冬の暖かさも問題

夏の暑さだけでなく、冬の暖かさも問題です。冬に生長が止まり眠った状態（休眠）になる果樹は、春になって温度が上がると休眠からさめ、発芽して開花・結実します。しかし、最近、冬の寒さが十分でないため、春の

果物も温暖化の影響を受けてるの？

うん そうなんだよ

リンゴやブドウは収穫する時期になっても色付かなくなったり

成熟期の高温
アントシアニンの合成が進まない
色づかない

ミカンは日焼け果や浮き皮果が発生したり

それにね 果樹が春になっても発芽しない「眠り症」というのがあって問題になってるんだ

冬があまり寒くないせいで春がきても気がつかないんだよ

あ 朝がきても気がつかないよ

…それは違うから

到来を感じできずにいつまでも芽を出さない「眠り症」という現象が起きており、特にビニールハウスで栽培するナシで大きな問題になっています。

将来、温暖化が進んだ場合、果樹栽培はどうなるのでしょうか。

例えば、ミカンの栽培には年平均気温が15〜18度の地域が適しています。約50年後の気温を予測すると、現在のミカン主産地の大部分では平均気温が18度を超えて、栽培に

適さない地域になってしまいう可能性があるので。

長期的な計画必要

果樹は苗を植えてから収穫できるまでに数年間かかり、そのまま数十年に渡って収穫を続けます。毎年新しい種をまいて栽培する米や野菜と違って、果樹は翌年から違う種類の果物を収穫したり、涼しい場所に植え替えたりするのはできませんので、長期的な計画のもとに対策をとる必要

があります。また、着色や発芽の不良などを改善するための栽培技術や、高温に強い新品種の開発も大変重要です。

温暖化の進行を止めるためには、電気や石油などのムダ遣いを減らすことが大変有効です。いつまでもおいしい国産の果物を食べるためにも、私たち一人ひとりにすぐにできることから始めてみませんか。

